

# 大谷探検隊の成果

## 諸國の探検

一八九九年（明治三十二年）ローマで萬國東洋學會が開かれた時には、歐洲學界での中央アジア探検熱は、餘程高潮に達して居たものゝやうで、遂に萬國中央及び極東アジア探検會組織の議が、ロシアのラドルフ博士によつてこの會議に提出され、ついで一九〇二年ハンプブルグで開かれた同會で愈々之が成立し、土地の關係から、一應、ロシアに本部をおき、參加國に支部をおき、諸國の探検隊に對してはロシア政府から種々便宜を計ることゝなつた。もつとも、これより以前一九〇〇年には既に英のスタイン氏は印度政府の旨を受けてこの地に入り、于闐附近の探検發掘に従事し、翌年多くの貴重な蒐集品を携へて引上げたので、益々諸國の學者をしてこの計畫に熱心ならしめたものであつた。

かくて一九〇〇年—一九〇一年のスタイン氏の探検を先頭にして諸國の探検が、此の地に行はれ、イギリスでは一九〇六年—一九〇九年にスタイン氏の第二回、更に一九一四年—一九一六年に同氏の第三回の探検があり、ドイツでは、一九〇二年—一九〇三年にグリュンウエーデル氏の第一回、一九〇五年—一九〇七年に同氏の第二回、一九〇四年—一九〇七年にはル・コック氏の第一回、一九一三年—一九一四年には同氏の第二回、フランスでは一九